

予 算 要 求 資 料

令和6年度当初予算

支出科目 款：総務費 項：防災費 目：防災総務費

事業名 防災教育推進事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

危機管理部 防災課 防災企画係 電話番号：058-272-1111(内2840)

E-mail：c11115@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 8,012 千円 (前年度予算額：4,346 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	4,346	0	0	0	0	0	0	0	4,346
要求額	8,012	0	0	0	0	0	0	0	8,012
決定額									

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨（現状と課題）

近年県内で発生した大雨による災害では、中小河川の氾濫や土砂災害により、多くの県民が家屋浸水など甚大な被害を被った。令和2年7月豪雨災害における住民避難行動実態調査では、避難を行った住民は約3割弱であり、令和3年8月の大雨においても避難した住民は約1%にとどまるなど、自宅の災害リスクに応じた適切な避難の必要性が未だ浸透していない。行政主導の避難対策には限界があるため、住民が自らの判断と意思で避難行動を取り、行政は住民が適切な避難行動をとれるよう支援する、住民主体の取り組みが必要である。

このため、災害リスクに応じた避難のタイミングや避難経路を調べて作成する「災害・避難カード」などの取組みを学校などで展開するとともに、市町村での取組みを支援することで、子どもを通じた家庭への防災意識の向上を図る。

また、結のもりや広域防災センターでの防災イベントを複数回実施することで、県民の防災知識・防災意識の向上を図る。

(2) 事業内容

- ア 災害・避難カードを活用した子どもから家庭への防災意識の向上
 - ・教育委員会や他機関との連携により学校現場での水害に備える教育の普及促進を図る。
- イ 親子向け防災教育フェアの開催
 - ・小学生親子を対象に、様々な体験を通じて防災について学べる「防災教育フェア」を複数回開催する。
 - ・県の防災教育施設である広域防災センターを活用して、家族みんなで防災を学ぶ体験型のイベントを実施し、子どもの防災意識の向上を促進させるとともに、子どもを通じた家庭への防災意識の向上を図る。

ウ 結のもり防災フェアの開催

め、子どもを宮めた全世代か水害について目り考えるより、市町村や学校での取
り組みを県が支援する。

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

災害時、平時に県民が主体的に適切な行動をとることによって自らの命は自らが守るとともに、各々が地域防災のために必要な役割も果たす。

県内各市町村において、災害・避難カード作成事業等の取組みを普及促進する。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R5)	R6年度 目標	R7年度 目標	R8年度 目標	終期目標 (R8)	達成率
災害・避難カード作成事業等実施市町村数	34	42	42	42	42	100%

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

令和5年度	<p>【取組内容】</p> <p>「災害から命を守る岐阜県民運動」としての防災キャラバンや県内小中学校や高校の授業において、災害・避難カードの作成講座を開催し、広く普及に取り組んだ。</p> <p>また、親子向けの防災啓発イベントを県広域防災センターにて2日間実施した。</p>
令和6年度	<p>令和6年度当初予算にて追加</p> <p>指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %</p>
令和7年度	<p>令和7年度当初予算にて追加</p> <p>指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %</p>

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<p>・ 事業の必要性 (社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) <small>3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない</small></p>	
(評価) 3	<p>近年豪雨災害が頻発しており、住民の安全な避難のためには、住民自らが避難について検討することを促す仕組みが必要である。</p>
<p>・ 事業の有効性 (指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) <small>3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない</small></p>	
(評価) 2	<p>災害・避難カードの作成を通じて平時から住民自らが災害リスクを把握し、避難行動を明確にしておくことで、確実な避難が実現する。 学校で子どもが水害時の避難や災害・避難カードについて考えることで、子どもを通じた家庭への防災意識の向上を図る。</p>
<p>・ 事業の効率性 (事業の実施方法の効率化は図られているか) <small>2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている</small></p>	
(評価) 2	<p>清流の国ぎふ防災・減災センターの教員、地域で活躍する防災リーダー等と連携し、効率的に事業を行っている。</p>

(今後の課題)

<p>・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 全県的に災害・避難カードの普及を図るためには、多くの学校や地域で取り組みが実施されるよう、住民への直接的な普及活動の主体となる市町村や学校を県が支援する必要がある。</p>
--

(次年度の方向性)

<p>・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 逃げ遅れによる人的被害が発生することのないよう継続した取り組みが必要。</p>
--

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

<p>組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課</p>	【〇〇課】
<p>組み合わせる理由 や期待する効果 など</p>	